

因は指標相場の下落だ。

LMEアルミ新地金相場は、4月末まで2,700ドル台で推移していたのが、5月に入ると、一気に100ドルも下落。円換算値でも4月28日(現地日)は242円だったのが、5月9日は224円と18円も下落しており、メーカー、問屋双方に与えたインパクトが非常に大きいことがわかる。

震災以降、需要の減少を理由に値下げを求めていた2次合金メーカーに対して、納入問屋筋はスクラップの発生量もおなじく減少し、需給バランスは低位安定していると値下げには反発していた。指標のLMEアルミ新地金相場も値崩れしていなかったことから、3月後半から4月後半の1ヶ月半の間、アルミ・スクラップ価格は高値修正による値下げが行なわれるだけで、実質的には据え置かれていた。その結果、震災後に需要が急減したものの、スクラップの値段は下げず、購入を見送るというメーカーが散見された。

値段は下がったものの、メーカーのスクラップ購入意欲は堅調。メーカー側は自動車向け需要が震災前と比べて2~3割落ちているというものの、問屋に対して納入を制限するような動きはみられない。

なお、主な品種の2次合金メーカー購入価格(置場・現金・キロ当たり)は、2Sが170~180円、63S168~180円、ビス付サッシ132~142円、エンジンコロ150~155円、込合金(機械铸件)131~140円となっている。

アルミ2次合金メーカー買値実勢値 (置場・現金・キロ当たり円)

関東地区 (5月前半)

2S=170~177円、63S=168~175円、アルミホイール(1P)=168~176円、ビス付サッシ=130~135円、エンジンコロ=150~152円、込合金(機械铸件)=131~136円、缶プレス(ソフト)=126~128円

関西地区 (5月前半)

2S=166~175円、63S=164~173円、52S=158~167、印刷板=170~179、ペースタル=175円~183円、機械铸件=128~135円、ドライ粉=110~117円、ビス付サッシ=128~135円、缶プレス=124~132円

アルミ・銅 高値買受

柳金属産業(株)

☎072-770-3582
日刊金属を見たとお申しつけ下さい

アルミ・銅、急落も下値は限定的 需要は、いずれも低位安定から微減

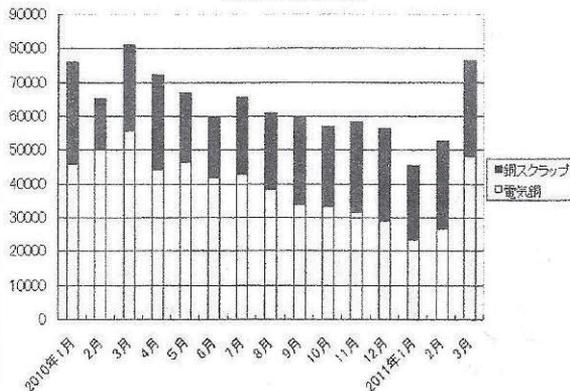
橋本健一郎氏(橋本金属)は、5月の銅とアルミの原料需要と価格の見通しについてレポートをまとめたので紹介する。

銅需要に関しては、電線等に関しては仮設住宅需要に期待できるものの、自動車向けへの販売も多くトータルでは4~6月は減少。伸銅品に

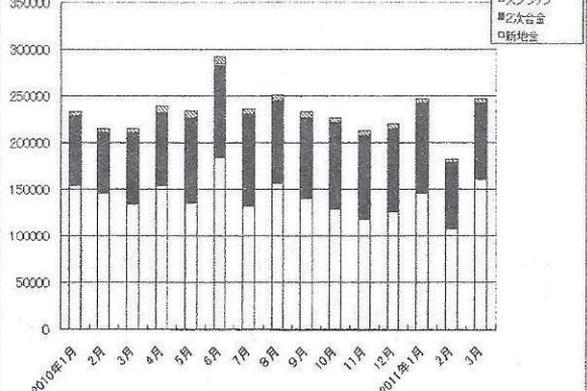
関しては今までけん引してきた板条は震災による影響が大きく年内は大幅減少管・棒については仮設・復興需要による大幅増が見込まれ、かつ夏季計画停電による今月からの作りだめ需要により大幅増。

銅価格は、金融引き締めが進む中国、再びPI

銅の地金とスクラップ輸出推移



アルミ原料の輸入推移



IGS危機に揺れる欧州経済など懸念材料はあるが金融緩和継続を決めた米国、震災により世界的な電気銅の供給懸念問題の再燃(中国隠れ在庫=約50万t、小名浜精錬所 日立精錬所 年間生産量合計約45万t)またスイス資源商社グレンコア上場に伴う時価総額引き上げ終了のための銅売却のうわさが今回の暴落でとりあえず終了したのではとの認識から下げ幅は限定的。世界的に引き締まったファンダメンタルズを背景に下げ幅は限られ、銅建値に関しては銅建値で75-84万円と予測している。

次にアルミは、一番の需要先の自動車産業は震災の影響により、生産・販売ともに半減した。前月に引き続き在庫も少なく、スクラップ発生期待も薄いものの、まだ国内自動車生産計画などが未発表であること。4-6月期は各メーカーの予測から割り出した数字が前年比で約半減している事から

需給は低位安定。

アルミ価格については震災によるパニック的な下げも見られなかった事、FRBバーナンキ議長が米国債買取については予定どおり終了するものの、低金利政策による金融緩和策は継続との見解を示したこと。スイス大手資源商社グレンコア上場のための金属売却も100ドル程度の小幅下落でのりきったことからファンダメンタルズは悪くなく2,600-2,750ドルを予測。

アルミ原料価格に関してLME価格の下落や合金メーカーは震災による自動車大幅減産予測から需要が減少するため値下げに踏み切りたいが実際は発生量も少なく低位安定定することから下げ幅が限定的4月後半価格から据え置きから一5円。前月に続き仮設住宅需要により増産予定のサッシメーカーについては据え置き。

JX日鋳
日石金属

銅建値は1万円引き上げの76万円 平均建値は75万8,300円に

JX日鋳日石金属は11日、電気銅建値を1万円引き上げの76万円とし同日から実施すると発表した。これは海外銅相場が堅調推移したことを受けて引き上げられたもので、このまま月末まで建値に変更が無ければ平均建値は75万8,300円となる。11日入電のLME銅相場がセツルメントでは8,935.5ドルで、これと同日発表のTTSレート81.93円とで換算した採算価格は73万2,100円となり、建値と採算価格からみた諸掛りは2万7,900円となる。直近6ヶ月の建値推移は次の通り。

(キロ当たり円、カッコ内は改定日)

・2010年

12月 = 750(1) 780(3) 800(9)	
820(14) 830(24)	平均 802.6
・2011年	
1月 = 840(4) 820(11) 850(13)	
820(21)	平均 833.6
2月 = 850(1) 860(3) 870(7)	
900(15) 870(18) 860(23)	平均 863.1
3月 = 850(1) 860(7) 840(9)	
810(11) 780(16) 820(22)	
830(25)	平均 826.2
4月 = 830(1) 860(7) 870(12)	
830(15) 820(20) 830(26)	平均 838.5
5月 = 750(6) 760(11)	平均 758.3

三菱
マテリアル

鉛建値は1万7,000円引き下げの23万9,000円 平均建値は24万2,600円に

三菱マテリアルは11日、鉛建値を1万7,000円引き下げの23万9,000円とし同日から実施すると発表した。これはLME鉛相場が軟調推移したことを受けて引き下げられたもので、このまま月末まで建値に変更が無ければ平均建値は24万2,600円となる。11日入電のLME鉛相場がセツルメントでは2,380ドルで、これと同日発表のTTSレート81.93円とで換算した採算価格は19万5,000円となり、建値と採算価格からみた諸掛りは4万4,000円となる。直近6ヶ月の建値推移は次の通り。

(キロ当たり円、カッコ内は改定日)

・2010年

12月 = 234(1) 240(7) 250(13)	
254(21)	平均 245.6

・2011年

1月 = 260(4) 268(11) 277(18)	
260(24)	平均 265.7
2月 = 260(1) 266(8)	平均 264.4
3月 = 258(1) 265(7) 255(15)	平均 258.3
4月 = 275(1) 294(8) 274(15)	平均 279.3
5月 = 256(2) 239(11)	平均 242.6